



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授
横山 浩之氏

先月の記事では、「早寝・早起き・朝ごはん」や「メディアの制限」といった子育てによいことを守らないことが、マルトリートメント(子ども虐待)に相当する可能性

があることを示しました。マルトリートメントはひとつではないので、マルトリートメントがひとつではない例として、しつけの問題を取り上げたいと思います。例えば、しつけのために子どもを叱り続けたり、危ないことをしたときに体罰を与えたりするのは、子どもにどんな影響を与えるのでしょうか。

お尻たたき効果なし

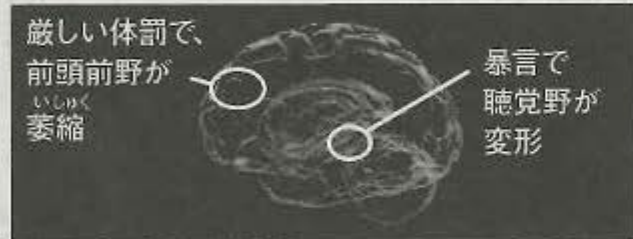
ドイツ留学中のことで、子どももの授業参観時に、児童が何回注意しても静かにしないと、教師がお尻をたたいていました。日本なら懲戒免職もです。ところが、懇談会でも全くこの話題は出ませんでしたし、保護者も気にする様子はありませんでした。翌日、先生に聞いてみたところ、ごく当たり前のこととのことでした。逆にやらなかったら、しつけをしないとして、保護者に糾弾されるのではないか。なるほどと思います。三回注意してもルールを

子どものしつけ

体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。

脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きなダメージを与えているかも知れないのです。

●子ども時代の辛い体験により傷つく脳



- ・厳しい体罰により、前頭前野(社会生活に極めて重要な脳部位)の容積が19.1%減少 (Tomoda A et al., Neuroimage, 2009)
- ・言葉の暴力により、聴覚野(声や音を知覚する脳部位)が変形 (Tomoda A et al., Neuroimage, 2011)

提供：福井大学 友田明美教授